

日本性科学会 ニュース

第26巻第2号

平成19年(2007年) 6月

発行人: 大川 玲子 印刷所: 懶 絢 文 社

第27回日本性科学学会/第9回性科学セミナーのご案内

会 期: 2007年11月10(土) 13:00~17:00 第9回性科学セミナー
11月11(日) 9:00~17:00 第27回日本性科学学会学術集会

会 場: 千葉市民会館(JR千葉駅から徒歩7分)
千葉市中央区要町1-1 Tel. 043-224-2431

学 会 長: 高波真佐治(東邦大学医療センター佐倉病院泌尿器科)

参 加 費: 性科学セミナー 3000円(学生1000円)

学会学術集会 5000円(学生1000円)

性科学セミナー + 学会学術集会(2日間) 7000円(学生2000円)

メインテーマ: 「ヒトの性行動を考える」

基調講演: 動物の性行動から人間の性行動を理解する(仮題)

東北大学大学院生命科学研究科教授

山元 大輔 先生

教育講演: 青少年の性行動全国調査(仮題)

東北学院大学教養学部社会統計学教授

片瀬 一男 先生

特別講演: パイロット4県のSTD実態調査(仮題)

東京慈恵会医科大学医学部教授

小野寺昭一 先生

会長講演: 陰茎勃起のメカニズム

東邦大学医療センター佐倉病院泌尿器科

高波真佐治

*一般演題締切 2007年6月末日

ご発表はパソコンプロジェクターを使用した口演のみとさせていただきます。

*一般演題募集要項

e-mailのみにて演題を募集致します。

必要事項を入力の上、抄録を添付ファイル(MS word)または、メールに書き込みお送りください。あわせて、プリントアウトした抄録原稿を下記宛にお送り下さい。

e-mail アドレス: masaharu@sakura.med.toho-u.ac.jp

FAX 番号: 043-462-8820(東邦大学佐倉病院泌尿器科 高波宛)

発表にはPower pointを使用して、当日はUSBメモリーを持参し、前もって動作確認を行って下さい。時間のない方、Macintoshの方はパソコン本体を持参して下さい。

*必要記入事項

1) 演題名とテーマ分類(テーマ下記から選んでください)

1. 性機能障害 2. 性暴力 3. 避妊・中絶 4. 周産期・不妊 5. 他疾患における性 6. 性教育
7. 性感染症 8. 思春期と性 9. 更年期・老年期と性 10. マイノリティの性 11. その他

2) 演者氏名(発表者を筆頭に)

3) 所属機関, 役職

4) 発表者連絡先住所, TEL, FAX, e-mail アドレス

5) 800字以内の抄録 目的, 対象・方法, 結果・考察の順に記載して下さい

*演題応募を受信しましたら、数日以内に確認のメールを配信しますので、もし、確認メールが届かない場合は、高波までご連絡下さい。

演題受付、採否、発表時間につきましては、追ってご連絡致します。

*ご案内は、ホームページでもご覧になれます。

http://www.lab.toho-u.ac.jp/med/sak/urology_27jsss

*お問い合わせ先 〒285-0841 千葉県佐倉市下志津564-1

東邦大学医療センター佐倉病院泌尿器科 高波真佐治

Tel: 043-462-8811 Fax: 043-462-8820

Vol. 26

№
2

日本性科学会

〒107-0062 東京都港区南青山1-1-1 新青山ビル西館3F

長谷クリニック内

TEL 03(3475)1780 FAX 03(3475)1789

第3回アジア性教育学術会議

実行委員長 堀 口 雅 子

2007年8月18日(土)、19日(日)、20日(日)の3日間、東京・池袋の立教大学キャンパスに於いて、第3回アジア性教育学術会議が開かれます。第1回は2001年中国(北京)、第2回は2004年台湾(高雄)で行われ、次回は4年後の2011年中国(香港)の予定です。メインテーマは「東アジアにおける性の教育と健康の展望; 学校、医療、地域社会でどう取り組んでいるか」です。

これまでの参加者はアジア各国から、長年、学校・地域で子供たちの「性の健康」問題に取り組んでいる教師・地域の方々。それを協力・支援する医療及び行政関係の人たちです。さまざまな国情の差はありながら、若者の性行動活発化・妊娠・性感染症の問題は格差が狭まっています。性教育に対する行政の対応も、積極的支援から抑圧と多様です。各国からさまざまな団体・個人が一同に会し理解を深めるという従来の目的とともに、日本の中の性教育に関わる連携が広がることを願い、皆様のご参加を心からお待ちしております。

プログラムは

第1日: 基調挨拶: 実行委員長

記念講演: 日本家族計画協会・会長、松本清一氏(産婦人科医。女性の健康をリプロダクティブヘルス・ライツの視点で指導してきた方)

記念講演: アルレッティ・ピネル氏(国連人口基金技術支援局・リプロダクティブヘルス部長)

各国代表のパネルディスカッション 夕刻: レセプション

第2日: 教育講演: 村瀬幸浩(“人間と性”教育研究協議会代表幹事)

教育講演: 北村邦夫(日本家族計画協会クリニック所長)

分科会: 口頭発表・ワークショップ

ランチョンセミナー: 岩室紳也(ヘルスプロモーション研究センター長)

第3日: 教育講演: 池上千寿子(おれいす東京代表)

総括シンポジウム: 各国代表 → まとめの報告

「分科会」は次のテーマが予定されています。

(1) 性感染症/エイズ (2) リプロダクティブ・ヘルス (3) 性暴力 (4) 多様な性 (5) メディア・リテラシー (6) 性に関する調査 (7) 性の権利 (8) 学校・医療・地域の連携 (9) 指導者養成(ピアを含む) (10) 教材づくりと活用 (11) 若者によるピアグループ活動

* 公用語は、日・中・一部英語。同時通訳、逐次通訳あり。

詳細はホームページをご覧ください。http://asia.seikyoiku.org

実行委員会 ●性と健康を考える女性専門家の会 ●“人間と性”教育研究協議会 ●(財)ジョイセフ(家族計画国際協力財団) ●(財)日本家族計画協会 ●(財)日本看護協会 ●(財)日本助産師会 ●(特活)おれいす東京

後援団体 ●UNFPA(国連人口基金)東京事務所 ●日本思春期学会 ●ヘルスプロモーション研究センター ●(財)性の健康医学財団 ●(財)JASE(日本性教育協会) ●(財)日本キリスト教婦人矯風会。以上、各方面のご理解とご協力を得、準備に取り組んでおります。

第26回日本思春期学会総会学術集会のご案内

会 長 茅 島 江 子

第26回日本思春期学会学術集会会長を務めさせていただきます、東京慈恵会医科大学の茅島江子でございます。

「思春期の力ーささえ・まもり・つなぐー」をメインテーマとし、2007年8月25日(土)から26日(日)の会期で、東京慈恵会医科大学西新橋校で開催することとなりました。また、学術集会に先立ち8月24日(金)午後には、市民公開講座(参加費無料)を開催いたします。会場は、JR新橋駅から徒歩15分、都営地下鉄三田線御成門駅から徒歩5分と比較的交通の便の良いところがございます。

現在、思春期を取り巻く社会環境は、不況による親のリストラ、少子化による子どもへの過剰な期待、親子・友人関係の希薄化など劣悪化し、少年犯罪、性感染症、自殺の増加など、思春期の身体やこころの健康に様々な影響を与えています。本学術集会では、このような時代の中で、思春期の力をどのように“ささえ”“まもり”“つなぐ”いくのか、思春期の人々の教育・保健・医療・福祉に関して第一線でご活躍の先生方の講演やシンポジウム、研究成果のご発表・討論を通して、皆さまと共に具体的な方策を考えていきたいと思っています。

市民公開講座では、水谷修先生から「今を病む子どもたちー現状と背景ー」のご講演を、ENJOY CAPの皆さまには中学生暴力防止プログラム(おとなワークショップ)を行っていただきます。学術集会では、特別講演として「若者における性感染症とその予防」小野寺昭一先生、「心の物語の紡ぎ方」北山修先生、「世界からみた日本の思春期」山本敏晴先生、教育講演として「思春期の私、そしてがん」多和田奈津子先生、「青少年の性行動の30年」片瀬一男先生にご講演いただきます。シンポジウムとしては「思春期を生きる」「思春期をささえる」「思春期をまもるー生活習慣病」「思春期をまもるー性の健康ー」「思春期をつなぐ」のテーマで、各分野でご活躍の先生方にご講演いただきます。日本性科学会の会員の皆さまのご参加をお待ちしています。詳しくは、第26回日本思春期学会ホームページ(http://adoles.plala.jp)をご覧ください。

事務局: 〒182-8570 東京都調布市国領町8-3-1 東京慈恵会医科大学医学部看護学科(茅島、細坂、越田)

TEL: 03-3480-1151(内線2751)

FAX: 03-3480-4739

E-mail: shishunki26@ymail.plala.or.jp

第 18 回世界性科学会議報告

東京大学大学院医学系研究科 高 橋 都

第 18 回世界性科学会議 (1st World Congress for Sexual Health) が本年 4 月 15 日から 19 日まで、シドニーで開催されました。本学会は、WAS が World Association for Sexology から World Association for Sexual Health と改名したあとの最初の学会でもあります。日本からの参加者の一人として、その様子をご報告します。

会場のシドニー国際会議場は、観光名所ダーリング・ハーバーに面した公園の一角にありました。会議場周辺はゆったりとした公園になっており、噴水や芝生広場で家族連れが思い思いにくつろいでいました。その周辺には、趣味のいいレストラン、水族館、博物館、ショッピングセンターなどが立ち並び、日常から脱却した国際学会の雰囲気を楽しむ意味でも効果的だったと思います。

学会に先立って 5 つのワークショップとサテライトシンポジウムがあり、15 日夜にはニューサウスウェールズ州知事も出席した開会式に引き続いてカクテルパーティーが開かれました。翌 16 日からは、和やかな雰囲気の中にも刺激的な議論満載のシンポジウムや口演発表、ポスターセッションが開かれました。シンポジウムは実に 28 テーマ、口演発表は 32 テーマ、ポスターは 12 テーマが用意されました。毎回感じるのですが、この学会の学術的な真摯さ、前向きさには触発されるものがあります。自分自身の価値観を振り返るいい機会を与えてくれます。

日本からは、性科学会の大川理事長、野末名誉副理事長を始めとして、約 20 名の参加がありました。慶応大学の佐々木掌子氏は性同一性障害に対する治療とクライアントの性アイデンティティとの関連について報告しました。大阪府立大の東優子氏と大阪教育大の野坂祐子氏は性産業を利用する日本人男性の HIV 予防行動に関する調査を発表し、注目を集めました。また、今回特に「日本人青少年の性行動調査」の結果全体を報告するシンポジウムが組織されたことは、特筆に価するでしょう。

今回私は、シンポジウム「がん患者における性機能障害のケア」に発表者として参加しました。このシンポの司会者はオランダ・エラスムス大学の Luca Incrocci 医師で、6 年前のバリ大会で出会って以来の知り合いです。バリ大会当時、「がんと性」はわずかにひとつの口演セッションでとりあげられただけでした。しかし今回のシドニー大会では、がんをはじめとして、さまざまな慢性身体疾患と性をテーマにしたシンポジウム・口演・ポスター演題が数多く見られました。しかも、このテーマの重要性を主張するだけでなく、具体的な支援の内容や、効果的な支援提供のあり方まで視野にいれて議論されていました。その変化を目の当たりにするのは、私にとって大変刺激的なことでした。

とはいえ、「西洋」の研究者がときに「東洋」あるいは日本に対して持つ、「あなたのお国で性にとりくむのは大変なんでしょうねえ」という先入観には、ときに辟易することがあります。実は、今回のシンポで私が学会事務局から与えられたタイトルは “How to deal with female cancer in a society where emotions are not easily discussed.” というものであり、日本的なコミュニケーションのあり方を特別視するニュアンスが少々感じられました。そこで、発表の冒頭で「これは学会事務局からもらったタイトルで、確かにそういう側面があるかもしれません。でも、がん患者のセクシュアリティにまつわるコミュニケーションが簡単ではないのは、日本以外の国々も同じではないでしょうか？」と呼びかけてみました。実際、それまでの発表を聞いていると、相違点より共通点のほうがずっと多いと思われたのです。もちろん国際学会では、普段は自明視している日本の状況を改めて言語化して説明する作業が必要ですし、それによってプレゼンの説得力も増すと思います。とはいえ、状況によっては「西洋と東洋」をあえて分けることが無意味であること、そして、いわゆる欧米諸国間にも微妙な差異があることも、もっと理解されればよいと思います。

がんと性のセッション終了後、そんなことを考えながら会場内を歩いていたら、フランス人参加者に声をかけられました。“I don't think emotions are not easily discussed in Japan.” と話し始めた彼は日本映画の大ファンだそうで、「大島渚の映画を見れば、いかに日本人が感情を言葉で豊かに表現するか、わかりますよ！」と笑顔で話し、「ま、小津安二郎は言葉より映像で伝えていたけどネ」と付け加えました。学会発表より映画のほうが、はるかに雄弁なようです。

4 月 18 日の夜は、恒例のガラ・パーティでした。美味しいディナーのあとは、生バンドの演奏によるダンスパーティーがエンドレスにくりひろげられ、シドニーの夜はふけていきました。参加者たちの笑顔と個性的なダンス、そしてオーストラリアワインの美味しさは強く印象に残っています。

次回の世界会議はスウェーデンで開催されます。これまた人間のセクシュアリティを考える意味で興味深い国と言えるかもしれません。北極圏をまたげばひとつとびです。楽しい思い出と新たな出会いを求めて、ご一緒に参加しませんか？

以下の URL から、シドニー大会の写真をご覧になれます。

<http://www.sexosydney2007.com/photos/home/index.html>

第 12 回日本性科学学会総会議事録

日 時：2007 年 5 月 20 日 午後 1 時 00 分～1 時 30 分
場 所：東京慈恵会医科大学西新橋校 1 号館 5 F 講堂，東京

大川理事長による開会の挨拶があった。

続いて，司会者（針間幹事長）が議長を誰にすべきかを会場に諮った。会場からの「司会者に一任」の声を受け，村口理事が議長となる。村口理事の議長で進行。

議長より，「出席者 44 名，委任状 129 名。総会が成立した」との報告があった。

議題 1 2006 年度事業報告（阿部副理事長）

○2006 年度の事業報告が阿部副理事長からなされ，承認された。（資料 1）

議題 2 2006 年度決算の承認（山崎理事）

○2006 年度の決算が山崎理事より報告された。（資料 2）
○本多監事より監査報告があり，決算は承認された。

議題 3 2007 年度事業計画案の承認（阿部副理事長）

○2007 年度の事業計画案が阿部副理事長により提示され承認された。

議題 4 2007 年度の予算案の承認（山崎理事）

○2007 年度の予算案が山崎理事により提示され承認された。

議題 5 学会会則改定について（大川理事長）

○大川理事長から会費に関する会則を以下のように改定する提案があり承認された。

- | | |
|-----------------|-------------------|
| (1) 正 会 員 | 15,000 円→12,000 円 |
| (2) 賛 助 会 員 | 50,000 円→50,000 円 |
| (3) 学 生 会 員（新設） | 5,000 円 |
| (4) 役員，幹事 | 15,000 円 |

なお，大川理事長から，この変更は，会員の脱落を防ぎ，新たな会員を勧誘し易くするためであるとの説明と，この変更に伴う収入の減少に対しては，通信費，印刷費，旅費，交通費，等の削減と会員増員をもって充てるので，会員増加への一層の努力を要請したいとの依頼があった。

議題 6 第 28 回日本性科学学会学会長選任について

○大川理事長より菅沼信彦京都大学大学院医学研究科教授が推薦され，承認された。

第 27 回日本性科学学会学会長

○高波先生から「学会は，11 月 11 日に千葉で開催。多くの方の参加を期待している」との挨拶があった。

第 28 回日本性科学学会学会長

○菅沼先生の挨拶があった。

阿部副理事長による閉会の挨拶

総会資料 1

日本性科学学会 2006 年（平成 18 年）年事業報告

（2006 年 4 月 1 日～2007 年 3 月 31 日）

1. 第 11 回総会

期 日：2006 年 5 月 28 日午後 1 時 15 分～1 時 45 分
場 所：東京都・東京慈恵会医科大学西新橋校 1 号館 5 F 講堂
出席者：46 名 委任状：134 名

2. 会員状況（会員数）

2005 年度末 正会員	295 名	賛助会員	4 法人
2006 年度末 正会員	291 名	賛助会員	5 法人
年度内会員移動			
入会員数 正会員	25 名	賛助会員	1 法人
入会員数 正会員	29 名	賛助会員	0 法人

3. 会の運営

- (1) 理事会 2 回
- (2) 幹事会 12 回

4. 学術集会の開催

- (1) 第 26 回日本性科学学会
期 日：2006 年 11 月 19 日
場 所：仙台市・仙台市情報産業プラザ
会 長：村口 喜代（村口きよ女性クリニック院長）
テーマ：ジェンダーとセクシュアリティ

5. 研修会，研究会の開催

- (1) 第 35 回性治療研修会
期 日：2006 年 5 月 28 日
場 所：東京都・東京慈恵会医科大学西新橋校 1 号館 5 F 講堂
- (2) 症例研究会 6 回開催

6. 学会誌，学会ニュースの発行

- ・学会誌 2 回
- ・学会ニュース 4 回

7. 資格認定制度実施状況（資格認定者）

- ・セックス・カウンセラー（更新者）2 名（登録者数 19 名）
- ・セックス・セラピスト（更新者）2 名（登録者数 40 名）

8. 関連団体との交流

- (1) 日本性科学連合（J F S）
 - ・加盟団体
日本性科学学会，(株)日本家族計画協会，(財)日本性教育協会，日本思春期学会，日本性機能学会，日本性感症学会
 - ・第 8 回性科学セミナー
期 日：2006 年 11 月 18 日
場 所：仙台市・仙台市情報産業プラザ
- (2) 第 9 回 G I D（性同一性障害）学会
期 日：2007 年 3 月 16 日～17 日
場 所：埼玉県・所沢市文化センター
- (3) 第 1 回近畿性科学研究会
期 日：2006 年 9 月 9 日
場 所：大阪市・大阪市立大学医学部学舎 6 階
- (4) 性の健康世界学会（W A S）
本年度は開催なし。
次回は 2007 年 4 月 15 日～19 日 オーストラリア・シドニーで開催予定。
- (5) 第 9 回アジア・オセアニア性科学学会
期 日：2006 年 11 月 1 日～4 日
場 所：タイ・バンコク

9. その他の活動

- (1) がん患者さんの活動を支援する会

日本性科学会 2006 年（平成 18 年）度決算（2006 年 4 月 1 日～2007 年 3 月 31 日）

日本性科学会 2007 年（平成 19 年）度事業計画案（2007 年 4 月 1 日～2008 年 3 月 31 日）

1. 学術集会の開催

○第 27 回日本性科学学会

期 日：2007 年 11 月 11 日（日）

場 所：千葉市・千葉市民会館

会 長：高波真佐治

（東邦大学医療センター佐倉病院泌尿器科）

テーマ：「ヒトの性行動を考える」

2. 研修会、研究会の開催

(1) 第 36 回性治療研修会

期 日：2007 年 5 月 20 日（日）

場 所：東京都・東京慈恵会医科大学西新橋校 1 号館

(2) 症例研究会

3. 学会誌、学会ニュースの発行

4. 資格認定制度の実施

5. 関連団体との交流

(1) 日本性科学連合（J F S）

・セミナー／2007 年 11 月 11 日（日） 千葉市民会館

(2) G I D（性同一性障害）学会

(3) がんと性研究会

(4) セクシュアリティ研究会

(5) アジア・オセアニア性科学会

(6) 性の健康世界学会（W A S）

2007 年 4 月 15 日～19 日 オーストラリア・シドニー

(7) 国際女性心身医学会（I S P O G）

2007 年 5 月 13 日～16 日 京都

(8) その他

日本性科学会 2007 年（平成 19 年）度予算案（2007 年 4 月 1 日～2008 年 3 月 31 日）

セックス・カウンセラー セックス・セラピスト

資格認定および更新に関する告示

資格認定制度委員会委員長 阿 部 輝 夫

日本性科学会「セックス・カウンセラー」「セックス・セラピスト」資格認定規定ならびに更新規定（日本性科学会雑誌に掲載）に基づき、平成 19 年度の資格認定ならびに更新を行います。申請期間は、8 月 1 日～8 月 31 日です。

資格認定希望者は、申請書類を日本性科学会事務局まで、ご請求下さい。

資格更新該当者には、事務局より更新申請書類を 7 月中に郵送致します。

いずれの場合も、規定をご熟読の上、ご申請下さい。

尚、現在有資格者の方で、当学会のカウンセリング・ルームを使って治療を行ってみたいとお考えの会員がおられましたら、事務局までお知らせ下さい。

どの程度のニーズがあるのかを知るための参考資料にさせていただきたいと思います。